

## 第2回東大阪市高齢者地域ケア会議 企画運営会議 要旨

開催日 令和2年7月22日(水) 午後2時より午後3時30分まで

### 協議内容

- ・認知症啓発コラム「おれんじ通信」のテーマについて意見を出し合い、「認知症と作業療法士」などの様々な提案があった。
- ・現在の認知症サポーター養成講座について報告がある。7月から少しずつ件数が増えているが、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、開催件数はかなり少ない状況。
- ・認知症本人交流会について、広報などに関する意見交換が行われた。
- ・家族介護教室について、現在の取り組み状況が報告される。
- ・東大阪市在宅高齢者介護者リフレッシュ事業について、前回会議の意見も踏まえ、9月開催は見送り、状況を見ながら年度末開催を考えることとなる。また内容についても討議があった。

### 各機関の報告

#### 1 各選出機関の活動状況について

- ・基幹型地域包括支援センター 8/24 地域包括支援センター担当職員研修「弁護士と考える8050問題」 基幹相談支援センターと共催で、大阪弁護士会・障害者相談支援事業所法律支援事業を活用し開催。ウェブでの参加も可能。  
地域包括支援センターパンフレットは7月末に完成予定。
- ・地域包括支援センター 7/16 地域包括支援センター連絡調整会議 新型コロナウイルス感染症による影響やリモート会議などのオンラインツールに関する意見交換を行った。
- ・訪問介護事業所部会 7/13 処遇改善加算に関する研修 通所介護・通所リハビリテーション部会と共催。  
新型コロナウイルス感染症の影響により交流会や20周年記念講演会は中止。介護保険事業者連絡協議会フェスティバルは未定。
- ・訪問看護事業者部会 中河内ブロックの管理者会はZoomを利用して行っている。  
大阪府訪問看護ステーション協会から防護服43枚、フェイスシールド7枚、マスク50枚、消毒液1本の寄付があり、その後厚生労働省からもガウン400枚が届いた。  
現在はガウンなどを着用して自宅訪問するケースも多く、スタッフの熱中症などの健康管理が心配。
- ・通所介護・通所リハビリテーション事業者部会 7/13 処遇改善加算に関する研修 訪問介護部会と共催
- ・介護支援専門員連絡会 毎月会議は行っているが、今後どのような形でやっていくかは検討している。研修会についてはまだ開催できていない。  
担当する利用者の中には新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者もおり、自宅訪問する時にはケアマネジャーはガウンなどの備品は持ち合わせておらず不安になることがある。
- ・布施医師会 7/28 東大阪市一般介護予防事業 脳健康教室体験説明会 18名定員で27名の申込あり。  
7/30 病病連携連絡会 新型コロナウイルス感染症への対応  
認知症初期集中支援チーム 布施 120件エントリー/79件終了
- ・河内医師会 9/12 令和2年度東大阪市市民健康シンポジウム「在宅でも大丈夫！認知症－在宅医療と介護の連携－」 場所はイコーラム大ホールだが定員は80名。
- ・市立東大阪医療センター 7/30 東大阪緩和ケア地域連携カンファレンス 予定通り開催する  
新型コロナウイルス感染症関連ではPCR検査数は増加傾向にあり、現在は数床患者の受け入れをしている。

- 社会福祉協議会 新型コロナウイルスに対応した生活福祉資金が当初7月末までだったが9月末まで延長になった。  
7/29 認知症キャラバンメイト研修会 25名参加予定。今回は地域包括支援センター職員を対象。
- 保健所 健康長寿マイレージ 8/1 市政だよりに掲載。  
東大阪市内のバーで新型コロナウイルス感染症クラスターが発生。
- 福祉事務所 新型コロナウイルス感染症の影響で身体障害者手帳などの有効期間が申請により1年延長されている。  
老人クラブの補助金は1か月遅れでの手続きとなっている。  
虐待などのケースワークで自宅訪問が必要でも、新型コロナウイルス感染症拡大防止を理由に断られることがある。
- 地域包括ケア推進課 大阪府よりイエローステージの対応方針に基づく要請が出された。地域包括支援センターと総合事業の住民主体型サービスのグループへ改めて新しい生活様式の徹底とスタッフの健康管理に留意してもらうために文書を発出している。  
八尾こころのホスピタルと連携会議を行い、東大阪市民の受診状況を確認し、連携強化を図った。また対象者への認知症本人交流会の勧奨を依頼した。さっそく参加希望があった。  
認知症初期集中支援チームは7月から3チーム各々で支援を開始している。各専門職からも利用対象者がいれば、担当包括に繋いで頂きたい。